

舞鶴市廃棄物減量等推進審議会（第8期）第3回会議 摘録

【日時】令和7年5月30日（金）午後2時00分～午後3時50分

【場所】市役所別館5階 中会議室

【出席委員】山川会長、佐藤副会長、尾上委員、木谷委員、品田委員、高本委員、
谷口委員、寺島委員、永野委員、（12名中9名出席、有効に成立）

【事務局】市民環境部長：吉田、市民環境部次長：大谷、生活環境課長：有田、
環境施設課長兼清掃事務所長：清水、リサイクル事務所長：志摩

【傍聴者】なし

1. 開会

2. 議題

（1）令和6年度ごみ減量・リサイクル等の状況について

（2）可燃ごみ組成調査結果について

①有田課長から資料1、資料2の説明

②質問・意見

（永野委員）

舞鶴市の排出量は年々減っているが、京都府平均はさらに少ない。他市町の工夫や取組みを教
えてほしい。

（有田課長）

同じような取組みのほかプラスアルファの取組みもある。排出量が少ない市町は南部の都市部
に多く、店頭回収やリユースを行える店が多いなどの違いもあると考えている。

（山川会長）

京都府では京都市の影響が大きく、京都市が政策でかなり減らしている影響がある。特にR1か
らR2の減少はコロナで観光客が減り、飲食業などのごみが相当減った。コロナ後に観光客は戻
っているが、事業系のごみはあまり増えておらず、どうしているのかはまだわからないが、低
いレベルを維持している。

（佐藤副委員長）

私の住む町内のごみの取り残しは、昨年23袋あった。いろいろな理由があるが、もっと改善し
なければならないと思う。ごみの分別は間違えやすく、その改善策としてAIチャットボットの活用がい
いと思う。試しにやってみた。スマートフォンは常に持ち歩くので、すぐに調べられるのでと
ても便利だと思う。利用状況や反応を伺いたい。

（有田課長）

チャットボットの利用件数は集計できていないが、市のホームページでも目立つところに配置
している。市のホームページの閲覧数はごみに関することが非常に多い。チャットボットは更
に多く使ってもらえるよう工夫したい。京都市がAIで分別対応を始めるとのことなので、参
考にしたい。

（土本）

チャットボットはより幅広く回答できるように去年データの整理をした。

（山川会長）

音声でやり取りができるようになると更によくなる。

（3）舞鶴市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しについて

①有田課長から資料3の説明

②質問・意見

(尾上委員)

国の戦略として地方創生があり、それと廃棄物処理基本計画の関連性がわかりにくい。

(有田課長)

環境には経済・環境・社会が密接に関わり、環境に取り組むことは経済や社会の課題解決にも繋がると認識されている。その視点を持ちながら、経済社会の分野や地域づくりの視点も持ち、連携を取りながら進めていく。逆に連携を取らないと進まないところもある。地方創生という視点を持ちながら取り組む必要がある。

(吉田部長)

今年度から総合計画の見直しに着手しており、ワーキングの中で、舞鶴の強みは何かと考えたとき、必ず自然環境が出てくるので、それをどうまちづくりに生かしていくかを総合計画見直しのテーマに掲げようとしている。その中で廃棄物対策を考えたとき、地方創生への引き付けをあまり意識をしたことがなく、その視点で見ている人がいるということに気づいた。ごみ処理の基本計画や廃棄物対策について地方創生は考えたことがなかったので、改めていただいたテーマとして頭に置きたい。

(山川会長)

地方創生には観光産業など様々な観点があり、観光客による環境負荷を含め、環境を悪化させない仕組みを作っていくことは課題の一つである。リユースについては、市内にあるストックを活用して、新たな付加価値を地域の中で生み出すことができるので、外部資本で入ってくる新品だけでなく、地域の中でお金が循環するよう活用することも一つの方法だと思う。エネルギーでも、地域の中でお金を循環させる話もあると思う。もしかすると、ごみ発電なども活用できるかもしれない。総合計画見直しの中で、SDGsの先進都市として取り組んでいることを活用し、打ち出して行くのもよい。

(吉田部長)

政府の有識者会議の中で、若者や女性がどのようにまちづくりの意思決定に関わっていくかという意見が出ている。環境問題やごみ問題は、若者や女性の参画意識がどこにあるのかを考えるべきだと思う。総合計画の議論で環境の話になったとき、廃棄物対策についても意識していきたい。

(山川会長)

EUからサーキュラーエコノミーという言葉が出て、日本でも頻繁に言われている。これは資源・廃棄物対策をしつつ、地域はそのエリアの経済活性化や持続可能性、労働力、職場の確保などと繋がりながら発展していく戦略だ。これからの計画の中では意識していく必要がある。

(木谷委員)

転居した今の住所ではごみの取り残しがほとんどない。自治会ごとに住んでいる層など違うので、弱いところに焦点を当てて取り組むことについて考えを聞かせてほしい。

(有田課長)

取り残しについては、日々業者からも聞いている。取り残し量の多寡は地域で差があり、背景には地域住民の構成やネットワークの違いがある。その点に市から地域に当たることはできおらず、全市的な啓発や、個別の連絡で現地の状況を聞き、指導する対応をしているに留まっている。

(山川委員長)

効率化・重点化という観点から言っても、ここを改善すれば全体が良くなると見えるなら、そこに啓発を重点的に行うとか、その地域に絞った取り組みをしても良いと思うので、ぜひ検討して欲しい。

（谷口委員）

職場で、ごみ減量化の会議に出て、設定した目標が早く達成できこれからどうしようかと話していると言ったら、「これ以上何を求めるんだ」と言われた。もう一工夫する必要もあるが、事業所の取り組みが話題に出てきておらず、私達も事業所の取り組みを知らない。テコ入れするならそこに焦点を当てた話し合い、学びも必要になると思う。1回の会議で横断的に話し合うということなので、市民の私達が事業所についてどの辺まで考えているのか議論しなければならないと思う。地域については、いつ不燃ごみの立ち番にテコ入れが始まるのかと思っており、積極的にやめたらいいと言う意見はないが、いろんな意見を聞いて欲しいと思う。経緯があつて残っているので、負担だけで検討したら、地域の絆はどうするんだということになる。地域の皆さんが反対せずに協力されており、いつまでも先延ばしにすることが、諦めモードを与えていないか。いつか見直すと言いながら変わっていない。どこかで力を入れて話し合うべきだと思う。

（品田委員）

私は自治連区長連に属しているが、高齢化や、若い人が地域の事を考えたり活動しにくくなっているなど地域の力は弱くなっている。町内会で人の結びつきが弱くなったと自治連区長連でも話している。環境面で言えば、昔は向こう3軒両隣という形で自宅の周りも掃く、ごみを拾うという配慮が住民にあり、道路にごみが落ちていることはあまりなかった。また、いろんな生物がいた。子供の頃は蝶々やトンボをよく取っていたが、最近見なくなっている。クロベンケイガニとかフナムシなど昔はもっといたように思う。逆に子供時代にはいなかったクマゼミが8月になるとよく鳴いている。クマゼミが発生するということは、気温が上昇している結果だと思う。様々な環境について、地域住民で考えて行くことがたくさんある。その旗振り役を、市役所と私たちがしなければと思っている。

（有田課長）

立ち番の任意化については、未達成の項目に負担を軽くしていくことが入っており、大きなテーマになってくる。基本方針の2、3のところで、色々な視点から意見をもらい、参考にした。立ち番のことは20年ほど前に生活環境課に配属された頃から色々な苦情があつたが、現在では地域力も大きな課題になっており、複雑な話になっている。対応方法も、一斉に立ち番なしになるのか、ならないのかなど、色々な視点からの検討が必要であり、ぜひ意見をいただきたい。

（吉田部長）

今、先延ばしにしないでという意見があつたが、これまでの審議会で説明してきたように、令和3年に新たな不燃ごみの有料化などをしたときから、取り残しが増え、その是正を一番にしたいと啓発に努めてきており、少なくともその間は立ち番をお願いしたいと説明してきた。8期になり、有料化前の水準まで取り残しが減ったため、いよいよ立ち番をどうするかという話になってきた。ごみ処理基本計画の後期を迎えるに当たり、未達成の項目として、立ち番の任意化の検討を記載しており、今後のスケジュールでも12月の論点として「立ち番の必要性」というテーマを掲げているので、それまでの間に、委員がどのように考えておられるか意見をいただきたい。舞鶴市は平成10年に不燃ごみの6種9分別を開始したとき、市民との協働という名目で、自治会から立ち番を出し続けてもらっている。ライフスタイルが変わってきて、立ち番が難しいとか、高齢化により厳しい気象状況のときは立ち番ができないという意見をもらってい

るので、立ち番の任意化と地域コミュニティの醸成について考えるときが来ている。12月までに考えを固めていただき、意見が欲しいとタイムスケジュールにも記載したところである。

（山川委員長）

少し前倒しということもあるので、委員は10月に話せるよう考えて欲しい。

（谷口委員）

今期中間見直しで出すのはどこまで、どの辺が落としどころと考えるべきなのか。立ち番の任意化を検討すべきと答申し、さらに5年かけて任意化を検討する考えでよいのか。

（吉田部長）

それも含めてこの審議会でご意見をいただきたい。立ち番は終了すべき、周知も簡単で半年後にはやめようという意見、残り5年間の計画期間中に審議して、立ち番はやめようという意見、我々はその意見をどうしようかと考える。そのスピード感についても審議いただきたい。

（山川会長）

この審議会の答申を来年4月に出す。答申に来年度中にやめるべきとの意見を出したとして、次のステップで市がそれを受けてどうするのかを考える。審議会としてはこうだと言うことはできるので、そこまで議論してもよい。

（谷口委員）

これまでの審議会では、有料化のことは期限が決まっており、速く進めるスピード感があったが、地域に関わることは今までも量が少なかったり、自治会にアンケートをしてとか、色々なプロセスで多くの方が関わらないと進まないこともあった。今回もう少し地域について時間をかけられないかと思う。

（山川会長）

極端な話、8月の家庭系の話の次はその話を時間をかけて議論するスケジュール変更は可能だと思う。事務局の段取りもあるので、どこに時間かけるのかをここで議論すべきだと思う。

（谷口委員）

答申を出す期限は決まっており、熱量をかけるのはここだと答申に出ていれば、あとの5年で地域について話し合えると思う。

（山川会長）

例えば来年度に自治会に調査をして、再来年度にやめるという答申を出してもいいと思う。今のスケジュールの話はまさにこの論点なので、立ち番に関する地域の話はもっと早めに時間をかけた方がよいとの意見が多ければ、事業系の議題を後回しにして立ち番の話を先に行うスケジュールの調整について、事務局は可能と考えるのか。

（有田課長）

回数的には、これ以上議論を入れるのはタイトだと思うので、内容変更で調整したい。立ち番の議題をどのタイミングに入れるかは調整で可能だと思う。例えば、今回で家庭に関する議題をある程度進め、次の8月に事業系も含めた議論を終え、10月、12月で基本方針2、3のところを議論する形もあるし、家庭系の後に基本方針2、3を入れる形もある。この点、意見を伺いながら調整することは可能。

（山川会長）

この2パターンだと思うが、入れ替えるなら、事業系の話は少なくなる。後が詰まって十分議論できないことになりやすい。一旦ペンディングにして事務局と相談し、次回意見をもらうとか、今後1〜2週間で意見をもらい調整することもできる。この辺を時間をかけたいという意見があれば、2週間の間に事務局に言ってもらい、私と事務局で相談したいと思う。

(4)家庭における3Rの取組みについて

①有田課長から資料4の説明

②質問・意見

(山川会長)

今の説明は、数年間でやってきたことであり、資料にこれまでの課題や未達成項目があり、今後5年間に家庭系のごみを減らすことや、3Rを進める上で、どういう取り組みを強化してべきなのか、意見をいただきたい。また、こういう情報が欲しいとのリクエストもあれば事務局に伝えて欲しい。雑紙の回収は問題ないということによいか。

(有田課長)

紙については、新聞、ダンボール、その他があり、その他に雑紙が入っている。組成分析にもあるように、その他の紙が可燃ごみに入っていることが多い。

(山川会長)

組成調査では、可燃ごみの4割程度に紙類が入っており、その他の紙が7%、新聞が15%で可燃ごみを減らすことを考える参考になる。こんなに出てはまずいとか、これは少なくともいいなど意見があると思う。

(木谷委員)

主婦目線では、家庭にごみの置き場が増えており、段ボール・新聞紙はまとめて置いておけるが、お菓子の箱等は置く場所がなく、可燃ごみで捨てたいという感覚がある。古紙は、拠点回収に出せるが、お菓子の箱は出しにくい。拠点回収で出せれば、さらにリサイクルできると思うので、何か対策した方が良くと思う。拠点回収でも不燃ごみ回収時でも紙ごみが出る量は減っていると思う。

(有田課長)

紙ごみの分別収集は全体として横ばいもしくはやや減少傾向である。直接搬入が大幅に減っており、集団回収は微減。小さい紙は、リサイクルルートなどを考える上で、抜本的な解決が難しいところがあり、紙袋に入れて欲しいと紹介しているが、毎回ごみを出したあと、次の回収に使う紙袋を用意するのが難しいと感じられている。

(谷口委員)

最近は紙袋も有料化になり、お土産袋とか大きな封筒にも入れている。紙も分別という文化がだいぶ入ってきて、子供が多ければお菓子の袋や学校のプリントが多いが、紙を分別すると可燃ごみの袋が小さくなるメリットがあり、分別している。

(永野委員)

ティッシュの空き箱も使っている。雑紙と思えるものが生活の中に沢山あるので、紙袋がすぐに一杯になる。プラスチックは月2回収されるが、紙の回収は今も月1回で、溜まるのを嫌い直接搬入するのが現状だと思う。回収の回数を増やす検討をされるとありがたい。

(谷口委員)

拠点がもっとあれば良いと思う。一時はもっとあったが、スーパーなどが回収を止めている。

(永野委員)

資料に京都府食べ残しゼロ推進店舗のロゴマークがあるが、あまり見た記憶がない。市内に20店舗ほどあるとのことだが、実施している店は、具体的にどんな工夫をしているのか。

(有田課長)

10ほどある項目のうち2つ以上を実践すれば登録可能という条件があり、飲食店や小売店などが登録している。例えば、食品ロスを出さない調理をする、啓発をお店にするなどの取組をしているところがある。

(永野委員)

事業者への取組のメリットや経済性について情報発信が浸透していないと感じる。未達成項目の食品ロスも登録店の増加によって減ればよいと思う。

（山川会長）

府の制度は、京都市の制度を真似て始めたが、京都市は事前に社会実験的なことをやり、効果が認められるものに絞って広報し、そのうちのいくつかをする店を登録しているので、店が増えれば食品ロスも減ると思う。今、検索してみたが、舞鶴市でも旅館とか季節料理店など多くの店舗が登録している。舞鶴市の20店舗は府の中でも頑張った数だと思う。京都市は100店ほど登録があるが、さらに増やそうと登録条件を緩くして頑張る店を作ろうという話もしている。そこまで舞鶴市では広がっていないので、まずは広げることが重要だと思う。メニューの中でまだしていないことをしてもらおうアプローチがあれば、削減に繋がると思う。

（永野委員）

これは登録したらおしまい、その後の審査はないのか。

（有田課長）

登録で終わりと思う。市でもホームページで啓発として紹介するにとどまっており、ぜひ登録してくださいと働きかけまではできていない。実際店舗での削減にも繋がる効果はあると思うので、考えて行きたい。

（永野委員）

登録して終わりだと、せっかく登録した事業者も意識がどんどん薄くなって行くので、呼びかけ、働きかけがあればいい。

（山川会長）

舞鶴市は登録店舗が多いが、声掛けなどはしていないとのこと。京都市は働きかけ先リストを持ち、アピールする等やっている。府は制度を作るとき、サポート役として各市町村と連携してやるのがいいと話したので、府に相談することは可能だろう。食品ロスの社会実験は、舞鶴市にも協力してもらい進めたが、モニターを対象としてやると4割ぐらい減ったが、地域単位での協力の有無による違いは組成調査で見えなかった。冷蔵庫の整理グッズは結構使ってもらえたので、きっかけとしては良いが、モデル事業では差が出なかった。時間をかけて普及させ、効果が出るタイプの政策と、有料化のように始めたときに効果があり、下手をすれば段々落ちてくるタイプの政策もある。冷蔵庫の整理グッズがどちらのタイプなのか現状ではわからないので、見極めが必要だと思う。冷蔵庫の状態を写真に撮り、買い物のときチェックすることは、モニター調査で効果が出たが、社会実験ではほとんどやってもらえなかった。いろいろご協力いただいたが、これで行きましようというものが出していない。資料の一つ目の冷蔵庫整理等の普及啓発ツールの活用には、皆様に協力いただいたデータ等が書いてある。活用できる可能性はあるけれど、まだ展開できるほどの成果は出していない。食品ロスも大きなターゲットだが、これがいいという意見をいただければと思う。プラスチックについては、ペットボトル、レジ袋、その次に惣菜パックが多いが、これをどう減らすかは難しい。持参容器で買うスタイルもあるが、日本では広がっておらず、社会実験的にいくつかやってる程度。EUでは、使い捨てのプラスチックを使っては駄目というのが出ているので、持参容器とか繰り返し容器とかで買ってまた返すサービスが出ているが、なかなか日本では難しい。日本でもメグルー等やっているとこもあり、そこと連携して取り組む方法はあるが、ハードルは高い。ペットボトルはリサイクルすればいいと思われるかもしれないが、それよりマイボトルを使う方が環境負荷が低い。お茶は2Lのペットボトルを買い、マイボトルに入れて持ち歩く人もいるとの調査が出ている。体を洗う石鹸も、プラスチックボトルに入ったポンプ式が一般的になっているが、以前なら固形石鹸が結構あった。大きいボトルはプラスチックの増加に寄与している。例えば固

形石鹸の使用を推進する話もできるかもしれない。以上、研究で調査をしているものを紹介させてもらった。

（谷口委員）

スーパーでは食品トレーの回収をしているので、返すことができるが、ドラッグストア系で食品を扱っている店には、店舗回収がない。事業者が回収する動きが盛んになれば、家庭のプラスチックごみが店舗に戻っていく。それを拡大できないだろうか。

（山川会長）

働きかけ次第だ。肉などのトレイはスーパーで回収している。同じようにドラッグストアでも回収して欲しいと働きかけることはできる。しかし、惣菜パックの回収をしている所はあまり見かけない。蓋付きの深みがあるものや弁当系のパックで、これはポリプロピレンが多いが、回収ルートがないとお店だけではできない。何を対象にすればいいのか、調査しながらやる必要がある。

（谷口委員）

ドラッグストア系の店舗が増えているので、何か回収してくれると拠点回収が増える。民間事業者が社会貢献するための働きかけや補助金を行政が行うなど、生活圏の中で完結できる流れが望ましいと思う。車に積まなければごみを出せないなら、車を手放したときにどうするのか考えてしまう。買い物に行った際に出せるのが一番わかりやすい。

（山川会長）

自治体と店舗、時には市民団体が三者でこれは回収するという地域協定を作り、広げていくのは可能性としてある。水俣市が以前、発泡トレイをなくす協定作りをやっていた。市と市民団体が協力して、店舗や市場等と話をしながら、どういうものなら減らせるか情報収集して協定を作った。店舗とコミュニケーションしながら協定を結ぶこともできる。スーパーは回収してくれるが、他はやっていないので、アプローチする必要がある。最近、コンビニがフードバンク・フードドライブをやり始めており、食品寄付ができるようになっている。次回に時間をもらい、今日出た話や資料を踏まえ、できることを検討できたらいいと思う。次回から次のトピックに行ってもいいと思うので、委員の皆さん、準備して欲しい。

（5）その他について

①質問・意見

（尾上委員）

追加の資料はどう読んだらいいのか。

（有田課長）

目標の設定や見直しを進める上で、参考として国などではどんな数値になっているか見てもらうため資料をお配りしたもの。プラスチック資源循環戦略について、マイルストーンとして数字を書いている。リユースで、2030年までにワンウェイプラスチックを25%抑制するとか、リユースリサイクルのところで目標がそれぞれ書いてある。全体的にプラスチックを相当のスピードで減らすことを掲げてある。もう一つ、京都府の循環型社会形成計画が令和4年3月に策定されたとあるが、1ページ目、1人1日当たりの排出量の目標を令和12年度で760gとしている。既に府は令和5年で749gとなっており、舞鶴市はそれより高く、見直しの参考にして欲しい。資料は配っていないが、国に廃棄物処理法の基本方針があり、この中で家庭系ごみを令和12年度で478gにする目標もあるが、舞鶴市では生活系のごみが令和6年で405g。これらを参考にして欲しい。

（山川会長）

先ほど既に立てた目標は一定クリアしてるものもあり、どうするのか考えるとき、この資料を参考にしながら意見をいただきたいということ。

（高本委員）

亀岡市はレジ袋の提供を廃止している。舞鶴でもその取組の話は出ているのか。実施すると市民は大変だが、極端な取組も考えて行く必要があると思う。

（有田課長）

亀岡市は条例を制定し、思い切った取組をしている。舞鶴市は現時点で条例など強制力を持ったものはなく、まだ考えていない。

（山川会長）

次のステップの可能性だと思う。基本的にプラスチックのレジ袋を禁止し、紙とかバイオマスにすること。私も亀岡市に関心を持ち調査したが、他市よりも1割か2割ぐらい少なかった。

（有田課長）

今回は家庭系の話の中で店舗などの話も出た。家庭の取組は事業所の取組と密接に関わるため、分けられないこともある。次回の事業所のテーマでは、前回話題になった給食も一つのテーマにしたい。子供たちの生活に関わる部分であり、啓発や食育という部分になる。次回の予定は、家庭系が終われば事業系のテーマに入っていくが、その中で家庭系の部分も含めた議論になると思う。

（6）閉会

（吉田部長）

長時間ありがとうございました。まだ沢山思いをお持ちの方も多いと思います。事務局に様々なご意見を寄せていただきたいと思います。今後5年間の見直しに、活発な議論をお願いします。2点申し上げます。まず、可燃ごみの組成調査は、ごみ袋のサンプルを収集し、何が捨てられているのか袋を破り調べる作業です。このような調査をしている自治体は多くありません。山川先生が舞鶴市にお力添えをいただいたおかげであり、我々もこれを自負しています。分析していく中で、様々なテーマやキーワードが出て、ごみ減量のターゲットが見えてきます。あとは、どうやるかという点なので、今後の議論でご意見をお寄せいただきたいと思います。2点目はごみ処理基本計画の見直しです。ごみを出さない工夫をどうするかということです。もちろん、立ち番は市民の関心が高いテーマで議論も必要ですが、大事なのはごみを出さないライフスタイルを作っていくことです。ライフスタイルを変えるためには皆様に共通認識を持っていただく必要があります。人の意識に訴えることは非常に難しいことです。私は市民環境部を預かっていますが、ごみ問題をはじめ、人権啓発や地域コミュニティなど、全て、人の意識変革という非常に難しい課題です。共通認識を持つためには、この審議会のような市民が市民に対してメッセージを発信することが重要だと思います。1年間の議論になりますが、たくさんのご意見をいただきたいというのが私の願いです。本日はお世話になりました。